

第 101 号議案

第 6 次神戸市基本計画-2035年の神戸-の策定の件

第 6 次神戸市基本計画-2035年の神戸-を次のように策定する。

令和 8 年 2 月 17 日 提出

神戸市長 久 元 喜 造

第 6 次神戸市基本計画-2035年の神戸-

1 10年後の都市像

(1) “ともに描いた10年後の神戸”

以下の都市像は、神戸市基本構想に掲げた基本理念や“神戸らしさ”を踏まえ、多くの市民・関係者とともに描いた10年後（2035年）の神戸のありたい姿です。

人口減少や社会構造の変化が進む中にあっても、この都市像を市民・行政等の多様な主体と共有し、共通の目標をもって、ともにまちづくりを進め、海と山に象徴される豊かな自然や、歴史とともに歩んできたまちの誇りを次代へと紡いでいきます。

2035年の神戸

神戸空港や神戸港は、世界とつながる玄関口。そこには、絶えず人やモノ、情報が集まり、多様な文化が行き交うことで、新たな風が吹く。

都心には、おしゃれで心地よい雰囲気と、温かなもてなしの心があふれる。周辺に広がる交通網によって、人と人の出会いと交流がうまれ、まちの魅力がさらに深まる。

くらし息づく街では、個性豊かな駅を中心に、それぞれの理想のライフスタイルが形となり、ゆとりある上質な時間が流れる。

山から望めば、先人から受け継いだ農村や里山、豊かな自然が悠然と広がり、夜には世界に誇れる美しい夜景が幻想的に彩る。海に向かえば、汽笛や潮風に迎えられ、ジャズを育んだ港町の歴史と文化芸術にふれながら、贅沢な時間に包まれる。食は、自然の恵みと人に育まれ、いつでも人々の心を満たす。

しごとや学びの場では、経験と新たな挑戦が融合し、未来を切り拓く力が

みなぎる。

街のいたるところで、異なる世代や多様な人々が集い、支え合い、こどもたちの笑い声と皆の笑顔があふれ、まちのあたたかみが安らぎをもたらす。

人々の暮らしは、困難を乗り越え、築いてきた、たくましい礎によって守られ、それぞれの環境を思いやる行動が、次世代への安心を生み出す。

そして、まちの誇りは、神戸を愛する人々の心によって育まれ、力強く次代に紡がれていく。

(2) K G I (数値目標)

K G I (Key Goal Indicator) は、神戸市が目指す「10年後の都市像」を示す数値目標です。市民の幸福度や生活の質に加え、経済指標と人口指標を組み合わせることで、神戸のありたい姿を現しています。これらの K G I は、持続可能な都市の実現に向けた強い意思を示すものであり、あえて高い目標として設定しています。

社会や地域を取り巻く環境が大きく変化する中、達成には不断の努力と創意工夫が求められますが、その挑戦の過程は市民、市政において貴重な礎となります。また、高い目標を掲げることは、神戸市の都市経営における理念と志を体現するものであり、未来を切り拓く原動力となります。

【経済指標】

・実質 G D P 成長率 1 % 以上（年換算）の達成

「G D P (市内総生産)」は、市内で生み出されたモノやサービスの総額を示す数値で、この数値が上がるほど経済活動が活発になっていることを表します。「実質 G D P」は物価の変動を除いた、実際の成長を表す数値です。今後、人口が減少する中でも、空港の国際化や三宮の再整備、新しい技術の導入などを通じて、経済の活力を維持・向上させ、我が国全体の目標と同じ水準である年 1 % 以上の成長率を目指します。

・地域経済循環率※100% 以上の維持

「地域経済循環率」は、市内の稼ぐ力と地域の所得の比率を示す指標で、市内で生まれた富（お金）が、どれだけ市内で使われているか等を表します。市内店舗での売上が増えたり、近隣地域からも従業員が集まる地元企

業が増えるなどでこの指標は高まり、100%を超えると地域で経済が活発に循環し、独立して安定していることを示します。（100%を下回ると、ベッドタウンの傾向が見られます。）今後、神戸経済を活性化させ、地域の中で経済が循環する神戸独自の経済圏を維持・発展させることを目指します。

※地域経済循環率＝市内総生産（GDP）/市民所得

【人口指標】

- ・生活関連サービスを提供する市街地※の比率を維持

「生活関連サービスを提供する市街地」は一定程度人口が集積し、病院、学校、スーパーなど、生活に必要な施設が整った地域を示します。人口が減少する中でも、こうした地域を維持することで、多彩なライフスタイルが実現できる居住地として選ばれる都市を目指します。

※DID (Densely Inhabited District) 地区を準用。神戸市独自指標（2025年時点）を設定

- ・22～39歳の社会動態の転出超過を解消

本市では大学進学などで若い世代が多く転入してくる一方、就職や結婚・子育てのタイミングで転出する人が多い傾向があります。働く場の充実、子育て支援、住環境の整備などを進め、若い世代が住み続けたいまちを目指します。

【幸福度指標】

- ・Well-Being指標※に基づく幸福度6.5以上、生活満足度7.0以上を確保（2025年度神戸市実績）

「幸福度」や「生活満足度」は、市民がどれだけ心身ともに健やかに、安心して暮らしているかを示す指標です。この指標は、単なる経済成長ではなく、市民一人ひとりの「暮らしの質」を重視したものであり、人口減少が進む中でも、誰もが健やかに、安心して暮らせる都市を目指します。

（数値はそれぞれの都市の市民の価値観に基づく幸福感等の平均値であり、一概に他都市の数値と比較により優劣を測るものではありません。）

※出所：一般社団法人スマートシティ・インスティテュート「地域幸福度（Well-Being）指標」

2 都市像を実現するための方向性

【基本姿勢】

今後10年間、神戸だけでなく、東京をはじめ全国の都市で人口が減少し、さらに加速していくことが見込まれます。この時代の流れを冷静に捉え、短期的効果ではなく、長期的な視点に立ち、未来を見据えた都市の持続可能性を最重視することを基本姿勢とし、以下の3つの方向性で取り組みを進めることで、まちの誇りを育み、次代に引き継いでいきます。

方向性I 世界と繋がる2つの港「新たな時代の国際都市」へ

神戸は、古くから外国との交流によって、多様な文化や気風を取り入れながら、まちを発展させてきました。空港の国際化により、神戸は国内外とのつながりがより一層強化されます。多様な人材・技術・文化を取り入れ、神戸の強みと融合させることで、人・まち・しごとの魅力を高め、これからも「海と山に囲まれた美しいみなとまち」を守り育てながら、世界に開かれたまちとして、持続的な発展を目指します。

多様な文化や人との交流を促進し、グローバルに活躍する人材を育み、受け入れ、そして神戸への想いを胸に世界へ羽ばたいていく流れを加速させていきます。

また、海と山が織りなす美しい風景や豊かな自然・文化との調和などの魅力に加え、都心・ウォーターフロント再開発による相乗効果を活かしながら、国内外へ神戸の魅力発信を強化していきます。

さらに、国内外から集まる多様な人材や企業と、市内の大学や企業、行政等が組織を超えてつながり、イノベーションを創出することで、独立した経済圏を支えるものづくり、港湾、農水産、食、観光、医療・バイオ等の既存産業の発展、新たな成長産業の創出を加速させ、東京一極集中が進む中においても、関西圏ひいては日本全体の経済成長をリードしていきます。

こうした機能強化により、神戸の国際的な存在感を高め、新たな時代の国際都市として、市民の暮らしをより豊かにしていきます。

方向性II 個性豊かで多様な地域の融合「日常と非日常が交わり続ける都市」へ

神戸の地理的特性や歴史の中で形作られた個性豊かなまちなみや、豊かな自然は、神戸ならではの魅力です。今後、全国的に人口減少が進む中でも、先人たちがこれまでの歴史の中で築いてきた貴重な財産を最大限に活かし、磨いていくことで、将来世代が充実したライフスタイルを送ることができるよう、これからも「多彩な表情を見せるまち」を守り育てていきます。

都心部では、居住機能との調和を図りながら、商業施設や業務機能の集積を進めていきます。国内外から多くの人が訪れ、買い物やアート、食事など五感を刺激する体験ができる場を創出します。また、魅力的なビジネス環境の整備も進めていきます。

既成市街地やニュータウンでは、まちの顔である駅を中心に、生活利便施設のリニューアルや、職住近接の取り組みを進めます。さらに、商店街などに息づく下町文化を活かし、まちの魅力と暮らしの質を高めていきます。

また、海や山、農村・里山地域など、神戸が誇る豊かな自然を守りながら、市街地との交流を促進することで、自然と調和するまちの魅力を高めていきます。

そして、こうした多彩なまちなみをつなぐ公共交通網を維持・充実させ、それぞれの日常と非日常が交わる都市空間を実現することで、市民の満足度を高め、いつまでも住み続けたいと思えるまちへ、そして、国内外から愛され選ばれる都市を目指します。

方向性Ⅲ ともに乗り越え育んだ絆「いつまでも幸せを感じ、分かち合える都市」へ

これまでの歴史によって培われた進取の気風や、ともに災害を乗り越えてきた絆は、神戸のまちと人に受け継がれてきました。今後、先行きが不透明な変化の激しい時代においても、誰もが寄り添って助け合い、そして、新たな挑戦を続けていくことで、いつまでも「人間らしいあたたかみのあるまち」を守り育てていきます。

神戸の未来を担う子どもたちをはじめ、性別、年齢、障がいの有無、民族、国籍に関わらず多様な主体や団体が、地域の中でつながり、支え合いながら、誰もが安心して、それぞれの夢に向かって挑戦でき、主役になれるまちを目指します。

指していきます。

また、子育て・教育環境の充実、健康・福祉の増進や、安全で快適な住環境を支えることで、一人ひとりの笑顔を育み、誰もが安心して健やかで心穏やかに暮らせる環境をつくります。

さらに、新たなテクノロジーと先進技術を積極的に取り入れながら、地球環境への貢献や次代をリードする防災力を強化し、より豊かで質の高いくらしを実現させます。

そして、それらの取り組みを世界に発信することで、震災でいただいた多くの支援に、いつまでも感謝の気持ちを忘れることなく、国内外に貢献していくまちを目指します。

この第6次神戸市基本計画-2035年の神戸-は、令和8年4月1日から施行する。

第5次神戸市基本計画-神戸づくりの指針-（平成23年2月8日策定）は、令和8年3月31日限りで廃止する。

理 由

基本計画を策定するに当たり、神戸市議会基本条例（平成24年6月条例第4号）第8条第2号の規定により、議会の議決を経る必要があるため。